

2 芳賀地域農業振興計画等の取組状況

(1) 芳賀地域農業振興計画(R3～R7)の概要

キャッチフレーズ

求める農業がここにある！ ～次代に挑む芳賀地域の農業・農村～

■ 地域農業の現状と課題

芳賀地域は、西部は鬼怒川左岸に広がる平坦な水田地帯、東部は八溝山系の中山間地域と芳賀台地を形成する丘陵地帯となっており、土地条件が大きく異なる特徴を有しています。

日本一の産地規模を誇る「いちご」については、販売額も順調に推移する一方で、高齢化の進行や労働力の確保等が課題となっています。

平坦な西部エリアでは、農地の集積が進み、米・麦・大豆を中心とした大規模な土地利用型農業が展開されていますが、更なる農地集積・集約の加速化や露地野菜の導入など水田の効率的利用による年間を通じた収益の確保が求められています。

また、中山間地域を含む東部エリアでは、地域の特徴を生かした多様な農業が営まれるとともに、那珂川をはじめとした豊かな自然と棚田など魅力ある地域資源を生かした都市農村交流活動が活発に行われる一方、高齢化や耕作放棄地が増加しており、担い手と農地の再編や高収益作物への転換、観光業等他産業との相互連携による収益の確保が求められています。

■ 計画の推進方向

- 多様な地域の特性や経営類型を踏まえた高収益型農業の追求
- 日本一のいちごの産地としての技術力・経営力の一層の向上
- 農林業、飲食業、観光業等の相互連携、融合による地域の付加価値向上

地域戦略1 「日本一のいちご産地」を次代へ ～「100年産地」への礎を築く～

本県の園芸生産をけん引するいちご産地として100年目も「日本一」であり続けられるよう、規模拡大に伴う労働力の確保や苗の供給体制の一層の充実、技術変革へ対応した生産基盤の改革を進めていきます。



いちご苗の供給基地

地域戦略2 有利な土地条件を生かした大規模経営体の育成

平坦かつ広大な農地が広がっている芳賀地域の西部エリアにおいて、基盤整備や農地集積の推進、省力化技術の導入等により、経営面積100ha超を視野に入れた大規模な土地利用型経営体や機械化された露地野菜の産地を育成し、高収益型農業を推進していきます。



担い手への集積が進む真岡二宮地区

地域戦略3 多様な立地条件を生かした多彩で高収益な農業の展開

丘陵地帯から中山間地帯まで、多様な立地条件に合わせた農業が展開される東部エリアにおいて、加工・業務用野菜などの導入等による高収益型農業への転換を図るとともに、企業の参入などにより担い手を確保し、多彩で収益性の高い農業の展開を進めていきます。



参入企業によるキャベツの収穫風景

地域戦略4 地域の付加価値の向上による農村関係人口の創出・拡大

棚田や益子焼等の地域資源に恵まれ、首都圏からも往来しやすい距離にある好条件を生かし、農林業の枠を越えた他産業との連携による魅力的で質の高いサービスの提供により、地域の付加価値を高め、農村関係人口の創出・拡大と地域経済の活性化を進めていきます。



オーナー制を導入している棚田

(2) 地域戦略

地域戦略 1 「日本一のいちご産地」を次代へ ～「100 年産地」への礎を築く～

1 取組の背景及び対応方法

芳賀地域のいちごは、昭和 32 年の栽培開始以降 68 年以上の歴史があり、生産量日本一として本県の園芸生産を牽引してきました。今後、更に産地を発展させるため、「芳賀地域 1 1 5 (いいいちご) 戦略」に基づき、J A 販売金額 1 1 5 億円を目標に掲げ、幅広い年齢層の活躍を目指す【担い手戦略】、「とちあいか」への品種転換を進める【品種戦略】、収量・品質の安定を図る【技術戦略】、交流人口の拡大を図る“いい・いちごの郷づくり”【観光・直売戦略】に取り組めます。

2 成果指標と達成状況

※上段は計画、下段は当年の実績

成果指標項目	2020 (現状)	2021	2022	2023	2024	2025 (目標)
いちご販売金額(億円)	92	95	102	106 104	110 111	115
新規就農者累計(人)	61 名/5 年	20 15	40 32	65 47	90 65	115
とちあいかの面積割合(%)	2.0	7.0	23	35 52	50 80	65
とちあいかの単収(t/10a)	5.8	6.0 6.7	6.8 6.4	6.8 6.1	6.9 6.0	7.0
いちご関連施設の利用者数(万人)	3.4	5.1	7.2	7.5 6.2	9.5 —	11.5

3 令和 6 (2024) 年度の主な成果

- 就農相談会への出展、農業現地見学会の開催、就農相談等によって、令和 7 年産いちごの新規就農者を 18 名確保しました。また、就農希望者が円滑に就農できるよう、空き施設の情報集約方法を J A と検討し、部会員に対してアンケートを実施しました。
- 「とちあいか」への品種転換を進めるため、生産者に対し「とちあいか」の高い収量性や耐病性等の品種特性を座談会や栽培講習会等で周知した結果、令和 7 年産の生産者数は 447 名（前年比 151 名増）、栽培面積は 142ha（51ha 増）で、面積割合が 80%（28%増）に拡大しました。
- 令和 6 年産から「とちあいか」の定植苗生産が行われており、令和 7 年産も J A と連携して需給調整や供給体制の強化を図るとともに、健苗育成のための巡回指導を実施した結果、約 34 万本の定植苗を供給することができました。
- 交流人口の拡大を更に進めるため、S L へのいちご装飾の実施や「いちご王国とちぎ」マルシェ等へのはがいちご応援隊の出店等、いちご産地を PR しました。



ICT 機器を活用した「とちあいか」栽培



真岡地区いちご研究会現地検討会(11 月)

4 今後の課題・取組

- ①新規就農塾推進協議会と連携した新規就農者の確保・育成支援体制の充実強化
- ②「とちあいか」に品種転換した生産者への技術支援や「とちあいか」の品種特性を引き出した単収 7 t / 10 a 以上の栽培技術の確立

1 取組の背景及び対応方法

真岡市や芳賀町、市貝町の南部を中心とした芳賀地域の西部エリアには、平坦かつ広大な農地が広がっており、近年、大規模経営体への農地集積が進んでいます。

担い手の意向を踏まえたオーダーメイド型の基盤整備や農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化、省力化を図るスマート農業技術の導入等により、経営面積 100ha を超えるスーパー大規模土地利用型経営体の育成を進めるとともに、需要の高い加工・業務用露地野菜の機械化された大規模な産地育成を推進し、有利な土地条件を活かした高収益型農業を進めていきます。

2 成果指標と達成状況

※上段は計画(累計)、下段は当年の実績(累計)

成果指標項目	2019 (現状)	2021	2022	2023	2024	2025 (目標)
大規模土地利用型経営体(100ha 超)数 (戸)	6	6	6	5	9	9
大規模露地野菜経営体(3ha 超)数 (戸)	7	9	10	14	16	18
経営面積 50ha 以上経営体の農地集積率 (%)	9.4	10.0	10.5	13.5	14.0 (集計中)	15.0
土地利用型のスマート農業技術導入数 (技術数)	26	35	40	55	70 (集計中)	80
		40	51	62		

3 令和 6 (2024) 年度の主な成果

- 県が育成した「とちぎの星」は、縞葉枯病に極めて強く、近年の夏期の異常高温下でも品質が低下しにくいといった優れた特性を持っています。栽培講習会や技術情報の提供等を行った結果、令和 6 年産は 1,137ha (前年比 127%) に拡大しました。また、生産者が組織する「とちぎの星研究会 (二宮地区、茂木地区)」の品質向上等に向けた取組を支援しました。
- 大規模露地野菜経営体の育成を図るため、推進対象農家を選定し、各種機械の実演会開催や栽培技術支援を行った結果、3 ha 超の露地野菜経営体を新たに 2 戸確保することができました。また、加工用じゃがいもを重点的に作付推進した結果、令和 6 年産は 15.7ha (前年比 187%) に拡大しました。
- 圃場整備を契機としてスマート農業の導入を推進した結果、新たに 22 件の自動給水システムが導入されました。また、研修会を 2 回開催し、スマート農業に対応する機械やシステムの情報提供や真岡市で設置された RTK 基地局を使用した自動運転農機実演を実施しました。



スマート農業研修会



たまねぎ直播の様子

4 今後の課題・取組

- ①「とちぎの星」の品質向上及び作付推進と、農地の集積・集約化に向けた地域計画の実現支援及びスマート農業技術の普及
- ②土地利用型園芸モデル産地へのフォローアップ及び露地野菜導入志向者の掘り起こし及び省力化機械導入による大規模経営体の育成
- ③飼料用米・麦・大豆の生産拡大と耕畜連携組織の活動支援

1 取組の背景及び対応方法

益子町、茂木町、市貝町北部を中心とした東部地域では丘陵地帯や中山間地帯が広がり、地域の特性を生かした多様な農業が展開されていますが、不利な耕作条件などから営農効率が低いとはいえ、農業後継者、担い手が減少し続けています。

このため、圃場条件の改善を行い、土地利用型園芸作物の導入を促進して、高収益型農業への転換を推進します。併せて、新たな集落営農組織の設立、既存組織の体制強化等により担い手の育成・確保を図り、多彩で収益性の高い農業の展開を進めていきます。

2 成果指標と達成状況

※上段は計画(累計)、下段は当年の実績(累計)

成果指標項目	2019 (現状)	2021	2022	2023	2024	2025 (目標)
圃場整備面積(畑)(ha)	1,375	1,398 1,407	1,426 1,419	1,435 1,441	1,441 1,441	1,441
新たに高収益作物(園芸作物)を栽培した担い手数(戸)	0	2 3	4 4	6 5	8 8	10
集落営農組織等の合併・連携数(組)	0	1 1	2 2	3 6	6 6	7
直接支払制度(多面的機能・中山間地域)の取組地区数(地区)	115	127	131 134	132 136	137 138	137

3 令和6(2024)年度の実績

○中山間地域等に高収益作物の栽培を推進し、新たに3名の農業者がにらなどの園芸作物を導入しました。また、益子町さつまいも研究会では、令和7年産の栽培面積は12.2haに、茂木町の加工用じゃがいもは3haへ規模拡大する見込みです。

○令和6年1月に2法人が統合して設立された(株)こかいの郷は、統合効果で作業の効率化が進み、規模拡大も順調に進んでいます。令和6年産の経営面積は60haとなりました。また、地域おこし協力隊員1名を受け入れ、実務作業の幅が広がりました。



じゃがいも機械収穫実演会

○益子町小泉・本沼地区、市貝町椎谷地区における圃場整備事業

では、優先度の高い補完工事を実施しました。また、芳賀町北部第2地区では、園芸作物導入に向けた意向調査を行い、拡大意向を示した担い手と意見交換を行いました。

○直接支払制度の取組地区数は、多面的機能支払交付金67地区(6,085ha)、中山間地域等直接支払交付金71地区(810ha)の計138地区(6,895ha)となり、前年度から2地区(94ha)増加しました。

4 今後の課題・取組

- ① 圃場整備事業実施地区における面工事完了後の経営高度化、営農効率向上に向けた支援
- ② 露地野菜(さつまいも・加工用じゃがいも等)の安定生産支援
- ③ 集落営農組織の育成や連携等による体制強化
- ④ 直接支払制度における新規地区掘り起こし及び協定集落広域化事務の運営支援

1 取組の背景及び対応方法

芳賀地域は、温暖な気候、自然環境に恵まれ、工業団地の立地も多いなど、生活環境に優れた地域です。また、首都圏からも往来しやすい距離にあるとともに、棚田や益子焼、モビリティリゾートもてぎ、S L、道の駅など、特徴的な地域資源が豊富にあります。毎年、1,000 万人を超える観光客が来訪されており、これは栃木県を訪れる観光客の約 11%を占めています。

一方、芳賀地域での宿泊数は年間約 20 万人(県全体の 2.5%)にとどまっており、観光客の地域内での滞留時間は短い状況です。

そこで、地域内周遊性の向上、質の高い飲食や地域の特徴を生かした各種ツーリズムの推進など、市町の枠や農林業、観光業、飲食業等の関連産業の枠を超えたサービスの提供により地域の付加価値を高め、観光客等の地域内滞留時間を延ばすとともに、農村地域への 2 地域居住、移住定住なども視野に入れた農村関係人口の創出・拡大と地域経済の活性化を進めていきます。

2 成果指標と達成状況

※上段は計画(累計)、下段は当年の実績

成果指標項目	2019 (現状)	2021	2022	2023	2024	2025 (目標)
農業体験利用者数(千人)	131	122 54	128 77	134 74	141 (R7.5)	147
農産物直売所や農村レストラン等の利用者数(千人)	2,444	2,160 2,261	2,250 2,262	2,330 2,325	2,410 (R7.5)	2,500
周遊プランの発信数(プラン)	0	2 2	4 4	7 5	11 7	15

3 令和 6 (2024) 年度の主な成果

- 国内外からの誘客と新たなニーズに対応したグリーンツーリズムの取組に向け、芳賀地域の観光農園におけるインバウンドの需要調査や関係者との意見交換を実施しました。
- いちごによる芳賀地域への誘客等を目的に飲食店等 48 組織が参加する「はがいちご応援隊」によるいちごを使用したレシピの開発や試食会、研修会を開催しました。
- 各種 SNS、新聞等への掲載に加え、イベントへの出展など、「いい芳賀いちご夢街道協議会」の活動を通して、県内外の方々に芳賀地域の魅力発信と再訪・誘客の取組を実施しました。



はがいちご応援隊研修会(試食会)



地域イベントへの出展(いちごの果重を計測中)

4 今後の課題・取組

- ① 農村地域のグローバルビジネスの創出に向け、国内外からの誘客に対応した特色ある地域資源を生かしたプラン等の検討
- ② 農業関連施設・飲食店等と連携した新たないちご商品の開発及び誘客の促進
- ② いちごを中心とした企画やイベントの開催による日本一のいちご産地の認知度向上

（３）普及活動

普及活動１ いちご１００年産地につなぐ担い手確保と生産力の安定強化

１ 幅広い年齢層の活躍促進

就農後間もない生産者の経営を安定させるため、就農１年目８人、２～３年目１１人に対して、４月にＪＡと当所の担当を配置し、年間を通し毎月１回程度の巡回指導を実施しました。

また、育苗が負担となる高齢生産者や新規栽培者の軽労化に向け、管内４か所に設置されている定植苗基地に対して、良質な定植苗の生産と安定供給が図られるよう、定期的な巡回指導を実施しました。その結果、３３５，６８０本の定植苗を生産し、供給することができました。



定植苗の生産状況

２ 新品種「とちあいか」の作付拡大による収益性の向上

芳賀地域１・１・５戦略の目標であるＪＡ販売金額１１５億円の達成に向けて、栽培講習会や個別支援を実施し、収益性の高い「とちあいか」の品種特性を周知し作付け推進を図りました。その結果、令和７年産の「とちあいか」生産者数は４４７名（＋１５１名）、栽培面積１４１．７ｈａ（＋５１ｈａ）となり、全体に占める作付面積割合は、８０．２％（＋２８．２％）に拡大しました。また、『「とちあいか」未来創りサポートチーム』による新規「とちあいか」栽培者への巡回指導を実施し、品種特性に応じた栽培管理の実践を支援しました。



真岡地区いちご研究会現地検討会

普及活動２ 地域を支える大規模土地利用型経営体の育成

１ 経営体の規模拡大に伴った省力化技術の導入支援

土地利用型経営体の規模拡大を図るため、省力化や自動化等、スマート農業技術の導入が進んでいます。このような状況の中、Ｒ６年１２月に真岡市においてＲＴＫ基地局が設置されました。

ＲＴＫ基地局の設置により、スマート農業機械の自動運転の精度が高まります。ＲＴＫ基地局の利点を十分に周知し、ＲＴＫ基地局を活用したスマート農業技術がさらに普及するように支援していきます。



芳賀地域スマート農業研修会

２ 需要に応じた稲麦大豆等の作付及び安定生産の推進

需要に応じた稲麦大豆生産を図るため、講習会や現地検討会により、水稻「とちぎの星」や「夢あおば」等に係る情報提供を行いました。

特に、飼料用米の多収品種については、一般品種に比較し、水田活用の直接支払交付金の単価が高くなったため、生産者から注目されました。当事務所では、「夢あおば」の展示ほを設置するとともに、現地検討会を実施し、関係機関・団体と情報交換を行いました。Ｒ７年産以降、さらなる普及を目指します。



飼料用米「夢あおば」現地検討会

普及活動 3 多様な需要に対応した稼げる野菜経営体の育成

1 大規模露地野菜経営体の育成

露地野菜経営体の経営強化を図るため、重点対象者を選定し技術支援や補助事業活用による規模拡大の推進に取り組んだ結果、作付規模 3 ha 以上の経営体数が 17 戸（前年比 + 2 戸）に増加しました。特に若手生産者グループを中心にさつまいもの作付けが増えており、モデル産地化に向けて支援しました。

また、新規の露地野菜経営体を確保するため、加工用じゃがいも収穫実演会など、各種事業を延べ 3 回（参加者延べ 146 名）開催しました。



さつまいも現地検討会

2 スマート農業の普及と効果的活用による安定生産

促成なす、促成トマト及びにらにおける環境モニタリング装置導入農家におけるデータの検証及び効果的な活用を検討しました。環境測定データと生育調査データによる検証を実施し、部会内の情報共有に努めました。

その結果、若手農業者を中心に環境測定に対する意識の向上が見られ、ICT導入農家戸数 27 戸（前年比 + 1 戸）も増加しています。



環境測定理解促進の説明会

普及活動 4-1 目指せ！日本一の「にっこり」梨産地の育成

1 にっこりの拡大と新技術の導入による生産性の向上

J A はが野梨部会を対象に、収益性の高い「にっこり」の導入拡大を推進するため、栽培管理ポイント資料の配付や個別推進を行う

た結果、にっこりの占有率は 1 ポイント拡大が図られました。また、栽培講習会で新一文字型樹形やジョイント栽培等の省力樹形の導入拡大を推進した結果、省力樹形は 14.3 ha（前年比 + 40 a）に増加しました。

この他、ならたけ病による枯死対策技術を取りまとめたマニュアル作成や、輸入花粉の使用制限に対応する人工授粉の体制確立に取り組んでいます。



にっこり目揃え会

2 なし産地の多様な担い手確保育成

なし産地の担い手確保を図るため、芳賀地区果樹産地構造改革計画策定協議会の就農希望者受入プログラムに基づき、譲渡可能樹園地の情報収集のための生産者アンケートを行うとともに、梨栽培への新規参入希望者を対象に、現地見学会・体験会・就農相談会を実施しました。

その結果、新規参入希望者 2 名が決定し、就農に向けて、とちぎ農業マイスターの元で研修を開始することになりました。



農作業体験会（せん定・誘引）

普及活動4-2 高収益花き経営の確立

1 スプレーマムの品質の向上

スプレーマムの安定生産を支援するため、毎月の定例会や現地検討会等で栽培管理技術の向上に取り組みました。夏季の高温対策では、予定した時期に夏秋系品種の安定出荷ができるように、栽培技術の検討を行いました。部会員と関係機関で情報交換し、これまで部会員毎に判断していた暗期処理の期間を、部会内で統一することにしました。来年度も、近年顕著になっている高温への対策など、さらなる技術統一に向けて取り組んでいきます。



現地検討会の様子

2 鉢物販促活動の充実

芳賀鉢物生産組合における販促活動の活性化につなげるため、個別巡回を強化し、経営に合った品目選定支援や、安定生産に向けた技術支援を行いました。一部の品目では、夏季の高温の影響による開花遅延や品質低下が問題となっているため、栄養診断や高温対策情報の提供等、安定出荷への技術支援を実施しました。3月には市場関係者との情報交換会を実施し、品種や出荷時期、出荷数量など市場の要望を把握することで、注文の拡大と有利販売につながるよう努めました。



定例会の様子

普及活動5 生産性が高く持続的に発展する畜産経営体の育成

1 良質な飼料増産への支援

安定した良質な飼料増産による酪農経営基盤の強化のために、現地実証展示ほの設置による地域適応性のある牧草優良品種の導入及び耕畜連携を中心とした飼料稲の栽培・収穫・調製支援を行いました。

コントラクター、耕畜連携協議会、稲WCS栽培集団等に地域版の稲WCS栽培暦を配布し技術支援を行いました。また、省力化による増産に資するために、乾田直播によるSGSGS（粳米サイレージ）用稲の栽培（54ha）について検討会を実施しました。さらに、水田農業セミナーを通して耕種農家に対して飼料作物栽培を呼びかけ、意向調査を実施しました。



芳賀地域WCS用稲栽培暦

2 肥育豚の夜間制限給餌の実証

栃木県畜産酪農研究センターの研究成果として、去勢豚を夜間制限給餌により肥育することにより、飼料費が削減でき、粗利益の向上が期待できることが確認されました。そこで、管内の生産農場において、豚を夜間制限給餌により肥育し、発育成績や枝肉成績に及ぼす影響について検証しました。

その結果、生産農場で豚を夜間制限給餌により肥育した場合でも、不断給餌の場合と同等の発育成績や枝肉成績が得られることがおおむね確認されました。本技術は、「みどりの食料システム戦略技術カタログ（農林水産省）」に掲載されており、引き続き技術の普及に取り組んでいきます。



肥育豚の飼養管理

普及活動 6 安全・安心な農作物の生産と持続的農業の推進

1 とちぎグリーン農業の推進

関係機関・団体と共通認識のもと、とちぎグリーン農業の推進を図るため、推進会議や有機農業の現地見学会を開催するとともに、J-クレジットに係るJAとの打合せ、先進事例調査を行いました。

また、有機農業の取組拡大を図るため、新規参入者等に対して技術情報（事例集、栽培マニュアル）の提供や個別に技術支援を行いました。

さらに、環境負荷低減に取り組む5年間の事業計画を認定する「みどり認定」については、認定農業者や生産者グループ等を中心に周知を図り、認定を推進しています。



有機農業現地見学会

2 野生鳥獣による農作物被害防止対策の支援

野生鳥獣による農作物被害防止対策を支援するため、「農業被害防止対策サポーター事業」の活用推進を行いました。

茂木町下小井土地区では、事業活用によりアドバイザーを派遣し、集落点検や住民勉強会を行いました。被害状況や野生鳥獣の生態を把握するとともに、今後の侵入防止対策・捕獲・環境整備を推進しました。



集落点検

普及活動 7-1 次代の地域農業を担う新規就農者の確保・育成

1 新規就農者の確保・育成

市町・JA・農振等で構成する「芳賀地域就農支援ネットワーク会議」では、就農希望者受入プログラム（いちご・なし）を策定し、就農希望者を対象に農業現地見学会等を開催し、ほ場案内や作業体験及び先輩農家との情報交換等を行いました。

① いちご（1/23） ② なし（9/28, 10/31, 12/14）

また、県内外の就農相談会へ出展し、芳賀地域へ就農希望者を呼び込むとともに、農業インターン制度を活用し、農業体験を通じて就農意欲の醸成を図りました。



農業現地見学会「梨」

2 青少年クラブの自主的活動支援

地区青少年クラブ協議会では、11月12日に県外視察として、農機具メーカーを訪問し、ICT等の先進技術を学びました。

また、10月29日に関東ブロック農村青少年（4H）クラブプロジェクト実績発表会が開催され、芳賀管内から2名（畜産部門、複合部門）が発表しました。畜産部門の発表者は成績優秀者に選出され、3月に開催される全国青年農業者会議で発表する予定です。



関東ブロック大会

普及活動 7-2

地域の農業をけん引する担い手の確保・育成（認定農業者）

1 地域農業を支える担い手の確保・育成

認定農業者の更なる経営発展を図るため、芳賀地区農業者懇談会等と連携し、11月1日に「芳賀地区農業者サミット」を開催しました。農研機構中日本農業研究センター温暖地野菜研究領域 有機・環境保全型栽培グループ長 唐澤 敏彦氏を講師に招き「緑肥で高めよう、土壌の力を」と題し、緑肥の「土づくり効果」と「肥料効果」に関する化学性、物理性、生物性について御講演いただきました。



芳賀地区農業者サミット

また、市町と連携して農業経営改善計画の見直しや新規認定者の計画策定を指導しました。さらに、市町の範囲を超えた広域を担う経営体の計画の見直しを指導しました。

2 経営を高度化する認定農業者の育成

7月30日に認定農業者等の経営改善を図るため「経営改善相談会」を開催しました。税務・資産、法人・相続、労務、経営一般の4部門を設け、参加した5経営体に対し、経営上の課題について専門家が助言を行いました。



経営改善相談会

また、とちぎ農業経営・就農支援センターによるスペシャリスト派遣事業を活用し、個別経営体に中小企業診断士、司法書士、税理士、社会保険労務士を派遣（延べ10件）し、経営の高度化支援を行いました。

普及活動 7-3

地域農業をけん引する担い手の確保・育成（集落営農組織）

1 集落営農組織の育成・強化

茂木町の小山地区において、新たに「あかるい農村小山営農組合」が令和7年2月に設立されました。芳賀町の下高根沢西部地区においては、新組織設立に向けて、研修会や検討会を行うとともに、とちぎ農業経営・就農支援センターを活用して、専門家派遣による支援を行いました。



また、とちぎ広域営農システムのモデル地域で、組織化を進めている地域に対して、より優れた組織を設立するため、令和6年7月4日に魅力ある地域づくり研究所の可知代表を講師に迎え、「とちぎ広域営農システム構築セミナー」を開催し、一般社団法人の仕組みと設立について御講演いただきました。



とちぎ広域営農システム構築
セミナー

（上：講演会、下：地域確認）

2 モデル地区における集落営農組織の「連携」「合併」

市貝町小貝地区の2法人によって令和6年1月4日に新たな法人「株式会社こかいの郷」が誕生しました。新法人の設立に伴い、旧法人の解散手続きに係る財産処分が必要となったため、とちぎ農業経営・就農支援センターの専門家派遣を活用して、税理士による支援を行いました。令和7年度の夏頃を目途に解散登記を進められるよう、引き続き支援を行うこととしています。

普及活動 7-4 地域農業をけん引する担い手の確保・育成（女性農業者）

1 次世代女性農業者の育成

農業を始めて間もない女性農業者等を対象に「農業機械安全利用講座」を開催しました。本講座は農作業安全及び農業機械のメンテナンスに関する知識の向上を図ることを目的とし、農業機械メーカー職員を講師として、身近で利用している「刈り払い機」の基本的な安全利用やメンテナンスの方法を実技形式で実施しました。



芳賀地区農村女性視察研修会

2 男女共同参画の推進

男女共同参画の身近な実践となる家族経営協定の締結や女性農業者の認定農業者申請（共同申請含む）を市町等と連携して支援しました。

また、農村女性組織会員の資質向上を図るため、11月に「農家民泊の運営」などを学ぶ管外視察研修会を開催しました。また、12月には組織活動の紹介と健康づくり講座で「フレイル予防」を実践で学びました。



座ってできるフレイル予防体操

(4) 農業・農村整備の取組

生産性の高い基盤づくりや水管理等の省力化、担い手への集積集約に向け、農業農村整備事業の計画及び実施を推進しています。現在、主に計画2地区、実施4地区の事業推進に取り組んでいます。

【計画地区】

地区名	市町	事業量	工期	概要
茂木	茂木町	区画整理 A=1.5ha 用排水路 L=42.0km 他	R7～R15	- 生産基盤（農地や農業水利施設、農道等）の総合的な整備 - スマート農業の普及促進を図る情報基盤整備 - 活性化施設（そば打ち体験施設）の整備
穴川用水	真岡市 筑西市	用排水路 L=15km	R11～	- 老朽化の著しい水利施設の整備 - 施設の改修による維持管理労力の負担低減 - 施設改修に併せた担い手への集積集約

【実施地区】

地区名	市町	事業量	工期	概要
小泉・本沼	益子町	区画整理 A=52.3ha	H30～R8	- 丘陵地における畑地中心の基盤整備 - パイプラインによる畑地かんがいの整備 - さつまいも等の高収益作物の大規模栽培
椎谷	市貝町	区画整理 A=27.2ha	H31～R8	- 暗渠排水による畑地利用可能な水田の整備 - 地区面積の約9割を担い手に集積 - 法人参入による施設園芸作物の導入
芳賀町北部第2	芳賀町 市貝町	区画整理 A=205ha	H31～R10	- 県内最大規模の圃場整備地区 - 水稻生産の省力化に向け、自動給水栓を導入 - 排水路の暗渠化による維持管理労力の軽減
里西・星の宮	益子町	区画整理 A=26.4ha	R6～R12	- 地下かんがいシステムによる水田でのたまねぎ栽培 - すべての農地を2法人に集積集約 - 畑でさつまいも等の高収益作物の大規模栽培

【芳賀町北部第2地区】



圃場整備の実施前



圃場整備の実施後